

か し がわ
加志川水系河川整備基本方針

平成28年5月

長 崎 県

か し が わ
加志川水系河川整備基本方針

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 加志川流域の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
1) 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	3
2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 並びに河川環境の整備と保全に関する事項	3
3) 河川の維持管理に関する事項	4
2. 河川の整備の基本となるべき事項	5
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設等への配分に関する事項	5
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	5
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る 川幅に関する事項	6
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に 関する事項	6
＜参考図＞	
加志川水系流域概要図	

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 加志川流域の概要

加志川は、長崎県対馬市美津島町に位置し、その源を白嶽連山（標高 515.3m）に発し、山間部を北流した後、敷島橋を経て北西方向に流れ、小流を合わせながら県道加志橋付近で北東に方向を転じて、浅茅湾加志浦に注ぐ、幹川流路延長 3.4km、流域面積約 6.2km²の二級河川です。

流域の気候は、日本海型気候に属し、秋から初春にかけては大陸からの冷たい季節風のため冷え込むことが多く、年平均気温は約 16℃です。年降水量は約 2,200mm で、梅雨や台風の影響を受けるため、6月から8月にかけて雨量が多くなっています。

加志川流域の地形は、上流域の、天然記念物に指定されている洲藻白嶽原始林で覆われた山地、中流域の沿川に家屋集落が形成された谷底平野、下流域の水田等の耕作地として利用されている三角洲低平地で構成されています。

流域内の地質は、そのほとんどが火山岩で構成され、河川沿いの低平地は、礫・砂・粘土などの未固結堆積物で構成されています。

流域の人口は、約 100人であり、加志川中流域の集落に集中しています。平成 16年 3月には、対馬島の 6町が合併を行ない新たに対馬市が誕生しています。市になる前の旧美津島町の人口では、昭和 50年代に入り減少傾向にあり過疎化と高齢化が徐々に進みつつあります。

流域内は産業等の集積に乏しく農業や漁業等の第一次産業が基幹産業となっています。

流域内には、加志川下流の川沿いに蒙古襲来を防ぎ戦死した宗一族の越前五郎の墓とされる宝篋印塔の石塔があります。また、加志川上流部には、太詔戸神と雷大臣命を祀る太祝詞神社遺跡が存在します。

河口部の湿地には、春及び秋の渡り時期にヤマショウビン等の希少な鳥類の飛来も見られ、野鳥観察のスポットとなっています。

加志川の治水・利水・自然環境及び河川利用状況の概要は、以下のとおりです。

①治水の概要

加志川では、河幅が狭く流下能力が低いため過去幾度となく台風や大雨による災害を引き起こしてきました。

主な洪水としては、平成 10 年 8 月、平成 11 年 6 月、平成 17 年 8 月がありますが、中でも平成 17 年 8 月洪水の際には、中下流の平野部で家屋の浸水や農地の冠水被害が発生しています。

このような被害を受けて、平成 20 年から河道改修を実施していますが、未だ流下能力の低い箇所があるため、洪水氾濫の危険性は高い状況にあります。

②利水の概要

加志川における水利用は、昔から主に農業用水に利用されていますが、近年、農業用水取水に大きな支障をきたすような渇水被害は発生していません。

③自然環境および河川利用状況

加志川は、感潮区間や堰の湛水区間を除き、普段から河川の水量が少ないという特徴をもっています。

加志川の上流域は、ミヤマシキミ・アカガシ群集に代表される^{すもしらだけんしりん}洲藻白獄原始林、シイ・カシ二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林などの山地で占められています。^{しきしまはし}敷島橋（1k950 付近）より上流は急勾配山地河川となっており、河床や河岸には岩盤が露頭しています。河岸沿いにカゴノキ、ケヤキ等が分布し水面を覆う環境が形成されています。2k000 付近から下流は伏没河川となっており、河床部にはヤナギタデ群落やレモンエゴマ群落が形成されています。また、右岸側上流域は鳥獣保護区に指定され、カケス（準絶滅危惧：長崎県レッドリスト（以下「長」という））などの鳥類が確認されています。

1k700 付近から加志橋（県道）下流の取水堰までの中流域は、ヤナギタデ群落、メダケ群落、ヨモギ群落などが分布しています。0k750 付近までは伏没河川となっていますが、取水堰上流は湛水域となっており、コガモ、マガモなどの鳥類、メダカ南日本集団（絶滅危惧Ⅱ類：環境省レッドリスト（以下「環」という）、準絶滅危惧：長）などの魚類、トゲナシヌマエビ（準絶滅危惧：長）、ヒラマキガイモドキ（準絶滅危惧：環、準絶滅危惧：長）などの底生動物の休息場、生息場、繁殖場となっています。

取水堰から河口までの下流域は、感潮域となっており、^{あそつわんか しゅうら}浅茅湾加志浦に注いでいます。堰下流は干潮時には陸化する干潟が形成され、ハマサジ（準絶滅危惧：環、準絶滅危惧：長）、ウラギク（準絶滅危惧：環、準絶滅危惧：長）などの塩生植物がみられます。また、ドジョウ（情報不足：環、準絶滅危惧：長）、クボハゼ（絶滅危惧ⅠB類：環、準

絶滅危惧：長）などの魚類、キヌカツギハマシイノミガイ（絶滅危惧Ⅱ類：環、絶滅危惧ⅠA類：長）やアシハラガニ（準絶滅危惧：長）などの貝類・甲殻類をはじめとする多くの動植物の生息・生育場となっており、チョウゲンボウなどの猛禽類の採餌場にもなっています。河口部には、アオサ海苔の養殖場が広がっています。

加志川の水質に関しては、公共用水域の類型指定を受けていないため、定期的な観測は行われていませんが、平成26年に加志橋上流地点（Ok700 付近）において行った観測では、BODの平均値は0.5mg/L程度であり概ね良好な水質と言えます。

（2）河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

加志川の整備にあたっては、安全・安心で快適な地域づくりをめざし、対馬市の社会・経済の発展に係わる諸計画（対馬市総合計画等）との調整を図りながら、水源から河口まで一貫した計画のもとに河川の総合的な保全と利用を図っていきます。

またその際、地域へ種々の河川情報を提供するとともに、河川に対する要望の集約、河川整備・保全に係わる取り組みの促進、河川の維持に係る取り組みの支援を行い、地域住民と連携した川づくりを行います。

1）洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

加志川においては、想定氾濫区域内の状況、県内バランス等を考慮し、計画規模の降雨により発生する流量を安全に流下させることのできる整備をめざします。

また、整備途上における施設能力以上の洪水や計画規模を超過する洪水等に対しては、洪水による被害を最小限に抑えるために、関係機関と連携して警戒避難及び情報連絡体制の整備等のソフト対策を総合的に実施します。さらに、災害に強い地域づくりのため、土地利用計画との調整を行うなど、流域一体となった取り組みを推進します。

2）河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の整備と保全に関する事項

河川水の利用に関しては、地域住民や対馬市等関連する他行政機関との綿密な連携のもとに合理的な水利用の促進等、適正な水利用を図ることにより流水の正常な機能の維持に努めます。

また、河川環境の整備と保全に関しては、重要種であるハマサジなどの塩生植物、アシハラガニなどの甲殻類をはじめとする多くの動植物の生息・生育・繁殖の場である干潟の保全に努めます。さらに、地域住民が水に親しめる場としての良好な河川空間整備を図ります。

3) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、災害の発生防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、その機能を十分に発揮させるため適切に行います。

河川管理施設については、河川の巡視及び点検を行い、亀裂・陥没等の異常がないかを確認し、異常が確認された場合には、必要に応じてその補修工事を実施します。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設等への配分に関する事項

基本高水は、年超過確率 1/30 の規模の洪水とし、そのピーク流量は、基準地点6号橋（河口から約1.50km）において120m³/sと設定し、これを河道へ配分します。

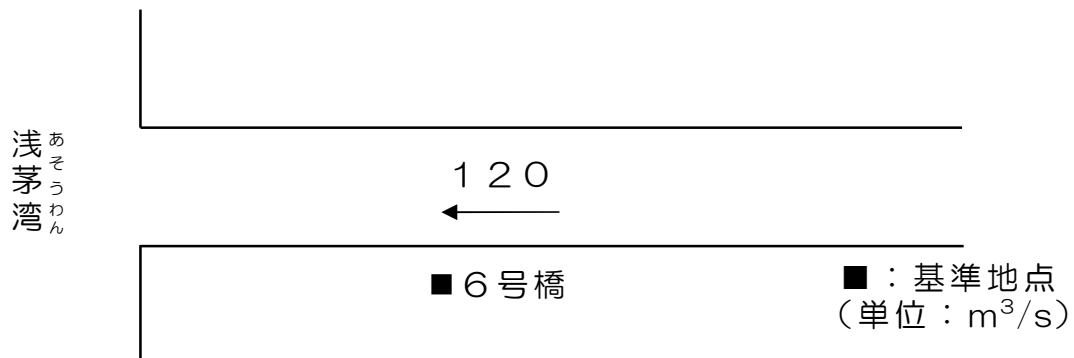
基本高水のピーク流量等一覧表

(単位：m³/s)

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設等による調節流量	河道への配分流量
加志川	6号橋	120	0	120

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

加志川^{かしがわ}における計画高水流量は、基準地点6号橋において120m³/sとします。



加志川計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次表のとおりとします。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅一覧表

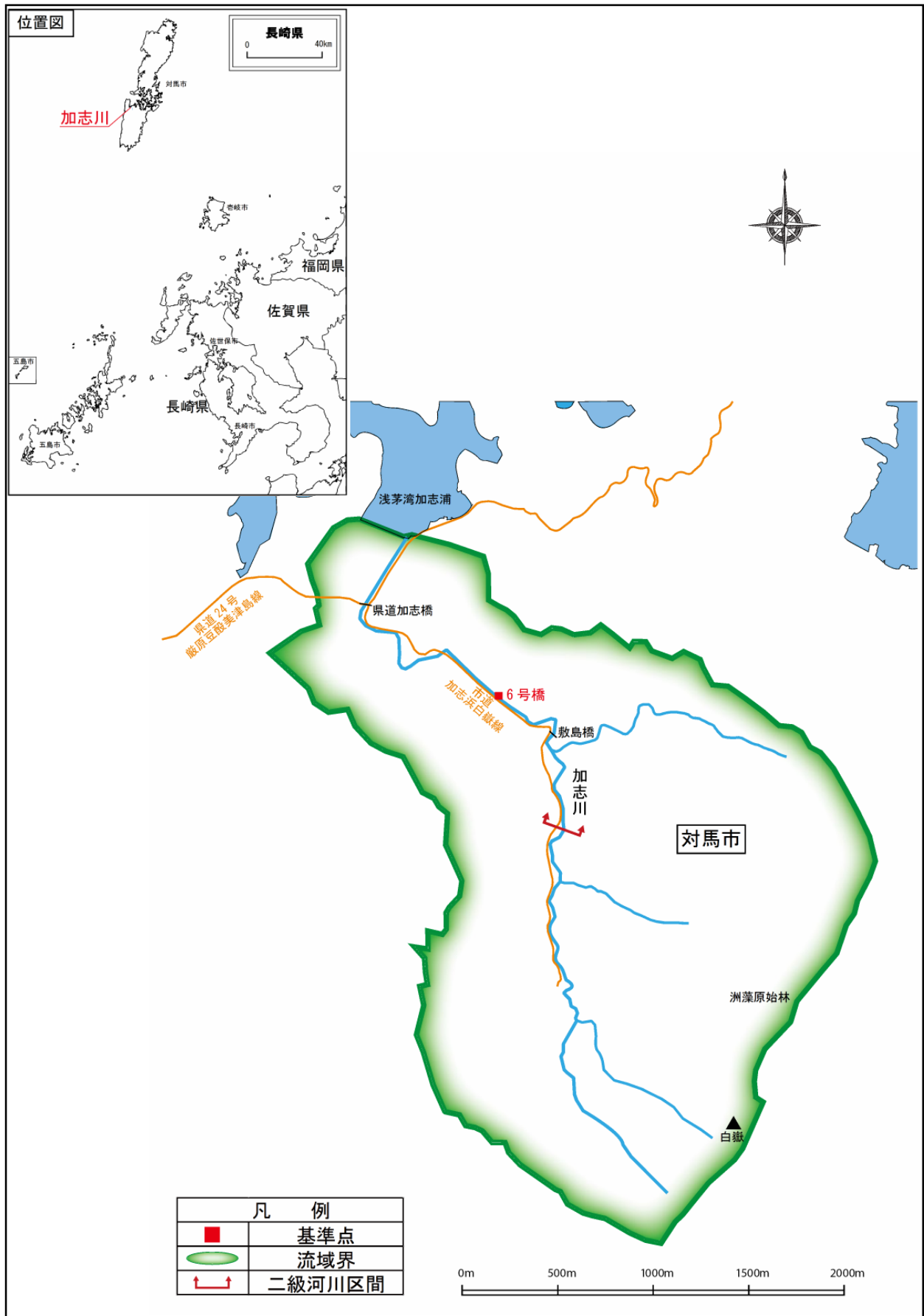
河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (I.P.m)	川幅 (m)	摘要
加志川	6号橋	1.50	+7.43	14	基準地点

(注) I.P : 巖原港平均海面

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関する事項

加志川^{かしがわ}の河川水は、主に流域内の水田等で農業用水として利用されています。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関しては、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮のうえ、今後、必要に応じて調査検討を行います。



参考図 加志川水系流域概要図